

東日本大震災を忘れない

#わたしの3月11日

2022年3月11日、東日本大震災から11年が経ちます。

当日に向けて、わたしにとっての3月11日を考え、震災のことを自分ごとにするきっかけを大学生協のみんなで作ります。

当時のことを思い返し、今後の1人ひとりの行動や意識を考えていきましょう。

参加方法 SNS(Twitter、Instagram、Facebook等)

①私にとっての3月11日を考えましょう。

例：当時感じたことや考えたこと
11年たった今、感じていることや考えていること
今後私たちが意識していきたいこと etc...

②考えたことを #わたしの3月11日
をハッシュタグとしてつけて発信してください。

・発信の際は、この画像をダウンロードして一緒に発信していただくと周りの組合員に参加を広げられます！

つながる元気、ときめきキャンパス。



全国大学生協連学生委員会
担当者：鳥井和真
(Torii.Kazuma@univ.coop)

◆東京ブロック学生事務局が、エリアごとに発信をしています。これからのことを見据えて、同じことが起こったら今どう行動するのかをぜひ考えてみてください。

◆考えたことは #わたしの3月11日 をつけて発信してみてください。



東京ブロック事務局twitter
ぜひフォローをお願いします！
@univcoop_tkbk

https://twitter.com/univcoop_tkbk

【南エリア】

https://twitter.com/minami_area/status/1501045977452474370

【総武エリア】

https://twitter.com/team_soubu/status/1501036944620359680

【武蔵野エリア】

https://twitter.com/Musashino_area/status/1501083803435298816

【北甲エリア】

https://twitter.com/kitakou_zu/status/1501032674370416640

東日本大震災を忘れない

#わたしの3月11日



2011年3月11日、私は小学校に帰りでした。書道に行かなければならないと、急いで帰っていたこと覚えています。書道教室に着いたときには、先生方が騒いで話していたのは印象に残っています。しかし当時は私はあまり自分事になっておらず、早く帰りたいと考えていました。今では、日本のどこで地震が起きてもおかしくないからこそ、当時知ったことを教訓化し生きていきたいと思っています。

東京農業大学生協 杉山直輝



当時、私は体調を崩し、学校を休んで自宅で寝ていました。停電し冷えた薄暗い部屋でラジオを聞いていた時、隣にいた母が小さく「げんぱつ」と呟いたのを鮮明に覚えています。かっつての私は「原発」という言葉すら知らず、何のことを言っているのか分かりませんでした。私はどのようにこの日と向き合えばよいのでしょうか。今、改めて、私の生活がどんなものの上に成り立っているのかを考えます。

明治学院大学生協 福沢果倫

つながる元気、ときめきキャンパス。



全国大学生協連学生委員会
担当者:鳥井和真
(Torii.Kazuma@univ.coop)

東日本大震災を忘れない

#わたしの3月11日



私は当時、小学生4年生で学校にいました。教室で先生の話聞いてると突然地震が起きました。おびえながら急いでみんなで机の下に隠れたのを今でも覚えています。さらに構内から外へ避難する際には学校の壁面にひびが入っていて自身の恐ろしさを目の当たりにすることになりました。今まさに首都圏でも大きな地震が起きる可能性が日々高まっています。あの経験から恐怖を忘れず、最善の行動がとれるようになりたいと思います。

東京農業大学生協 驛田 彬仁



当時、私は下校中で地震には気づきませんでした。先に家についていた友達から地震があったらしいと言われ、慌てて家に入り、テレビをつけたことを覚えています。しかし、自分は無事だったことから、そのまま遊びに行ってしまいました。今思うと、もっと身の安全について考えて、行動するべきだったのではないかと感じます。何年経ったとしても、被害の甚大さを風化させず、災害を自分ごとにとらえる必要があると思います。

横浜国立大学生協 佐々木優菜

つながる元気、ときめきキャンパス。



全国大学生協連学生委員会
担当者:鳥井和真
(Torii.Kazuma@univ.coop)

東日本大震災を忘れない

#わたしの3月11日



震災が起こったときは、小学生で帰りの支度をしていた時でした。今まで感じたことのない大きな揺れや棚からモノが落下してくる様子を今でも覚えています。

日本ではいつまた同じように震災が起こるかわかりません。この日をきっかけに改めて震災について考えてたいと思います。

日本女子大学生協 井上明香



震災が起きた当時、みなさんはどのように行動していましたか？私は小学4年生だったので、先生や親の言う通りにすることしかできませんでした。

しかし、大学生となって自律的な行動が求められる今、震災が起きたらあなたはまず何をしますか？いかなる状況でも最善の選択をできるように一度考えてみましょう。

埼玉大学生協 久野耕大

つながる元気、ときめきキャンパス。



全国大学生協連学生委員会
担当者：鳥井和真
(Torii.Kazuma@univ.coop)

東日本大震災を忘れない

#わたしの3月11日



忘れることができないあの日、小学生だった私は、クラブ活動の準備をしていました。自分の身を守るために机の下に隠れていながらも、ちょうど下校の時間だった一番下の妹の安否が気になり不安だった記憶があります。#わたしの3月11日は大切な人を想う日です。大切な人を想いながら、どんなことができるのか、考えてみませんか？

跡見学園女子大学生協 戸張桜



大きな揺れに驚くよりも、恐ろしさを感じたことを覚えています。校庭に避難して揺れがおさまり、教室に戻った後も呆然としていました。災害が起きるのは突然です。もしもの時、冷静に対応できるよう、普段から備えておくことが大切だと思います。避難経路を確認するなど、できるところから始めていきたいですね。

新潟大学生協 鈴木花蓮

つながる元気、ときめきキャンパス。



全国大学生協連学生委員会
担当者：鳥井和真
(Torii.Kazuma@univ.coop)

東日本大震災を忘れない

#わたしの3月11日



当時、僕は小学4年生で、体育をやっていたので、屋内から避難する必要はありませんでしたが、外にいてもかなり揺れたと記憶しております。学校や塾は休校になり、社会全体がストップしたのを覚えています。自然災害はいつ起こるかわかりません。ネットやメディアでは〇〇年に大災害が起こるといわれることもありますが、いつ起こってもいいように正しい知識と防災グッズを備えていきましょう。

法政大学生協 清水裕太



いままでに感じたことのない大きな揺れに不安感を覚えながらも、早く帰れることに喜んでいたあの日。家に帰ると、同じ日本とは思えないような光景がTVの中に映っていた。連日流れるニュースを見ながら考えた、自分ならどうするのだろう、どうなるのだろう。その想いをいつまでも忘れず、いつ来るかわからない、来ないかもしれないものにしっかりと備える。過去の出来事とこれからの心構えを伝えていきたい。

信州大学生協 土屋広登

つながる元気、ときめきキャンパス。



全国大学生協連学生委員会
担当者:鳥井和真
(Torii.Kazuma@univ.coop)

東日本大震災を忘れない

#わたしの3月11日



当時、私は小学校4年生でした。3月11日は、午前中授業だったため、地震発生時は既に帰宅して家で家族と一緒に過ごしていました。突然の大きな揺れに、動揺しながら家の外に避難したのを今でも覚えています。その後しばらくは、学校も休校になり、友達とも会えない日々が続きました。災害は、いつ起きるかわかりません。あの日から11年。皆さんも当時のことを思い出し、自分に出来ることはなにか考えてみましょう。

東京薬科大学学生協 長谷川桃子



教室で授業を受けているとき、地震が起こりました。全校生徒で集まって先生方と見たニュースを通して、津波の恐ろしさを目の当たりにしました。大学生になった今、行動範囲が広がり、一人で避難や情報収集などを行わなければならない可能性も高くなりました。正しい情報に基づいて避難できるよう、今から備えを進めておきたいです。

東京外国語大学生協 宮元優美歌

つながる元気、ときめきキャンパス。



全国大学生協連学生委員会
担当者:鳥井和真
(Torii.Kazuma@univ.coop)

東日本大震災を忘れない

#わたしの3月11日



小学校で授業を受けているときに地震が起きました。埼玉県でもかなり大きな揺れで、今でも忘れられません。余震もかなり大きく、いつまでも安心できませんでした。いつどこで起こるのか分からない地震、正しい対応をできるように考えていきたいです。

群馬大学生協 澤木翔



当時小学校中学年、理科のテストの最中でした。机の上から降ってくる鉛筆や答案が怖くて、家にいる母が心配で、いつも友達の前では気丈に振る舞い弱みを見せなかった私が声を殺して泣いていることに周りは驚いていました。自分よりも誰よりも母が大事なんだと確信した震災でした。

茨城大学生協 鈴木梨花



私は、震災が起きた時間以降しか、あの日の記憶がありません。だって、朝も昼もいつもと変わらない時間が流れていたから。震災は、突然やって来ます。今日と変わらない、いつもの日に！“今”、震災が起きたら、どう行動するべきか。何を持って、どこに逃げたらいいのか。しっかり考えておく必要があると思います。

お茶の水女子大学生協 濱口真帆

つながる元気、ときめきキャンパス。



全国大学生協連学生委員会
担当者：鳥井和真
(Torii.Kazuma@univ.coop)